

## 【保土ヶ谷区】令和3年第3回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年9月7日 午前10時30分 ～ 午前11時30分
場 所	保土ヶ谷区役所本館2階 202会議室
出席者	<p>【座 長】 北谷 まり 議員  【議 員】 斉藤 伸一 議員  青木 亮祐 議員  森 ひろたか 議員  磯部 圭太 議員  【保土ヶ谷区】 出口 洋一 区長  小林 仁 副区長  岩井 裕子 福祉保健センター長  金島 幸雄 福祉保健センター担当部長  井上 義晃 保土ヶ谷土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和2年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行実績について  2 令和3年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行状況について  2-1 多文化共生まちづくり事業について  2-2 花薫るきれいな街ほどがや事業について  2-3 福祉保健センターにおけるコロナ禍健康課題への取組について  3 その他</p>

## 議題1 令和2年度保土ヶ谷区個性ある区づくり推進費等執行実績について

北谷議員：

がやっこキッズ学び育み事業について、横浜市は、キッズクラブと放課後児童クラブという二つの柱で放課後の子どもたちを育成している。現在はキッズクラブが対象となっているようだが、良い事業なので、放課後児童クラブにも対象を拡げてほしい。

大吉こども家庭支援課長：

キッズクラブを対象に行ってきたが、希望があれば学童保育にも補助ができるような形での検討を進めている。

北谷議員：

希望する子どもたちが学習支援を受けられるように、引き続き検討をお願いしたい。また、窓口サービス向上事業について、研修ではどのようなことをしているのか伺いたい。

発言の  
要旨

中山総務課長：

窓口対応研修ということで、お客様の窓口対応や電話対応スキルの習得等を行っている。区役所の職員一人一人がお客様にしっかりと寄り添い、皆様に安心、信頼いただける職場づくりを進めている。

北谷議員：

しっかりと検証して、窓口サービスの向上を引き続き図ってほしい。

## 議題2-1 多文化共生まちづくり事業について

斉藤議員：

国際交流ラウンジが手狭となっているということだが、具体的にどういうことか。

石川区政推進課長：

国際交流ラウンジは面積的に非常に手狭となっており、外国人が求める情報の収集整理機能や交流する場所という機能が発揮できていない課題がある。

齊藤議員：

何年も前から議会で取り上げ、要望もしてきたが、18区中10区に設置されている区民文化センターが、保土ヶ谷区にはない。区民文化センター条例には、「地域に根差した個性ある文化の創造に寄与する」という文言がある。国際交流ラウンジと区民文化センターは、目的の方向性が合致している。一体的な解決についても検討して欲しい。

石川区政推進課長：

保土ヶ谷区としても長年区民文化センターの整備を要望しているが、適当な整備候補地がないことが課題となっている。区民文化センターを所管している文化観光局では、未整備の区については、再開発等まちづくりの機会に合わせ、区内の文化施設や公会堂などの公共施設の機能を踏まえ、区の特性に合わせて必要な機能を整備していくとしている。区としても、区内の再開発等のタイミングで、整備場所となりうる土地の状況を注視していくとともに、必要な機能について検討していく必要があると考えている。

齊藤議員：

文化観光局、区役所や都市整備局等多くの所管にまたがる事項であり、それぞれが見合っている状態が長く続いている。今後、より一層アンテナを張り、チャンスを勝ち取っていけるように取り組んでほしい。

出口区長：

区としても、かねてからの念願の施設である。アンテナを今以上に高く張り、動きがあればすぐ働きかけができるようしっかり見ていきたい。

森議員：

人権に係る議論の状況を伺いたい。また、保土ヶ谷区内外問わず、外国人を受け入れている民間施設も多くあると思う。このような施設との連携も含めて、今の庁内検討の中では、どのような議論がされているか。

石川区政推進課長：

新型コロナウイルスの影響もあり、現状の情報収集で時間を要し、庁内検討には進めていない。人権や民間施設との連携については、検討する際

に盛り込ませていただきたい。

森議員：

人権に関わる部分は非常に大切な問題だと思う。また、現実的には国際交流ラウンジだけでは、十分な支援や機能を持たせることが難しいのではないかと思っている。今、民間の施設の中でかなり受け入れてもらっているところもあるので、そのようなところと連携を図りながら、外国人が安心して保土ヶ谷の街で暮らしていけるような機能の拡充に努めてほしい。

北谷議員：

中学校の夜間学級について、南区の蒔田中学校で現在3クラスが開かれている。日本語の勉強が必要な生徒が在籍しており、保土ヶ谷区の方も在籍していると聞いている。多文化共生まちづくり計画の中で、希望する方へ夜間中学校の周知ができるようお願いしたい。

石川区政推進課長：

情報発信に努めていきたい。

## 議題2-2 花薫るきれいな街ほどがや事業について

斉藤議員：

ほどがや花憲章は、横浜で唯一、保土ヶ谷区だけが持っている憲章で、「パートナーシップ」という大事なキーワードが最後にある。地域、学校、事業所、行政とのパートナーシップを背景に、区民が花憲章を大事なものと認識することで、「花の街ほどがや」を目指すということになっている。今後予定されている花時計を楽しみにしている。この制作や維持・管理にあたっては、区民の様々な分野の方が、コロナ禍にあっても喜びや楽しみをもって携われるよう検討してほしい。

米村資源化推進担当課長：

区庁舎周りのプランターの維持・管理や星川中央公園の花壇の維持・管理等で、ボランティアであるフラワーメイトに大変協力をいただいている。引き続き、花時計の季節ごとの植え替えや維持・管理についてご協力いただき、区民の皆様と一緒に育てていければと考えている。

## 議題 2-3 福祉保健センターにおけるコロナ禍健康課題への取組について

北谷議員：

乳がんについては、健診の受診率が低く、啓発が重要だと思う。一般的な受診啓発とともに、40歳の女性への無料クーポンがあるというお知らせや、無料クーポンが発行されるのは6月だが、医療機関の窓口で、生年月日を言えばクーポン発行前でも受診ができるということもあわせて周知をお願いしたい。

檜崎福祉保健課長：

機会を捉えて受診していただくことが必要と考えている。地域での保健活動推進員と協働した啓発等に取り入れたい。

## 議題 3 その他

### (1) 保土ヶ谷区における新型コロナウイルス感染症の状況等について

斉藤議員：

現在入院できない方が増えている。自宅療養されている方の人数を教えてください。

檜崎福祉保健課長：

区別の人数は公表できないが、大体6割弱の方が自宅療養となっている。

斉藤議員：

自宅療養の方には、連日健康確認の連絡を徹底していると聞いているが、現場の理解はそれでよいか。

檜崎福祉保健課長：

自宅療養者の方は様々な不安を抱えていると思う。相談には寄り添って対応するとともに、リスクが高いと思われる患者へは、こまめに連絡を取るなどの対応をしている。

森議員：

生活困窮の申込みをされた人に、どのような支援をしているのか。その

日食べる物が無い、生活していく資金が無いなどの相談が多いのではないかと心配している。区役所に相談に来た区民の相談内容に、しっかりと答えられるような対応ができていればいいと思うが、予算の関係もあり、資金援助というのはなかなか難しいのではないかと感じている。どのような対応をしているのか教えてほしい。

金島福祉保健センター担当部長：

住宅確保給付金などの相談があるので、相談をいただいた折に、個々人の状況を詳しく聞き、給付金の申請手続きを行うことや、家計相談でお困りの状況の聞き取りをし、その状況に応じて、ジョブスポットを紹介するなどしている。件数はあまり多くないと認識しているが、その日に食べる物が無いなどの切迫した状況のケースでは、緊急の対応ということで、社会福祉協議会のフードバンクなど、関係機関と連携しながら、その数日の暮らしを支援するというような対応もしている。個々の相談内容を丁寧に聞き取り、お困りの方がなるべく困窮しないように対応を行っている。

森議員：

相談に来る方は、相当切迫した状態であると思われるので、丁寧に寄り添った支援を引き続きお願いしたい。

## **(2) 星川駅周辺のバス交通アクセス向上検討事業について**

森議員：

バス運行にあたっての安全対策について、これまでも地域の皆様から、歩車分離をして安全に歩行ができるよう、また車両についても安全に走行ができるよう、十分な照度を確保するようとの要望があったと思うが、この点の経過について説明してほしい。

石川区政推進課長：

現在、星川駅周辺の街路灯で、一部撤去されたものについては、道路灯・防犯灯として再整備されたと聞いている。また、今後更なる照度の確保ということで、地域で設置していただいているものを横浜市に寄附いただき、管理すると聞いている。

森議員：

歩行するにあたって照度は大切な安全対策なので、設置経過も踏まえながら区としてもできる対応をお願いしたい。

磯部議員：

減便・運行区間の短縮が見込まれるとあるが、ただ単にそれで良いとせず、ここは減らされると困るという区間は、区としてもしっかりと意見を述べて行ってほしい。

石川区政推進課長：

言われたとおり減らすということではなく、地域の皆様の意見も伺いながら、減便についてはバス事業者と情報共有し進めていきたい。

磯部議員：

地元に対して、どこにどのような説明を行っているのか。

石川区政推進課長：

周辺の星川一丁目から三丁目の会長に対して、7月に今の乗り入れのルート案について説明をしている。

磯部議員：

対象地域でなくとも影響が出るエリアを見極め、丁寧に説明をし、理解を得られるよう努力してほしい。

石川区政推進課長：

道路局等の関係機関とも共有しながら、地域に理解が得られるよう繰り返し説明していく。

斉藤議員：

令和4年度の星川駅南口交通広場の供用開始とは、具体的にいつごろか。

石川区政推進課長：

できるだけ早めにと聞いているが、具体的な時期についてはまだ示され

	<p>ていない。</p> <p>齊藤議員：</p> <p>減便や運行区間の短縮についてはとても大きな問題だと思う。我々も交通事業者に対してヒアリングを行っていきたい。また、地域の皆様をはじめ、関係する方が多くいらっしゃる。共用開始の間際ではなく、もっと早い時期に区でもよく状況を把握して、どのような運行形態になるのか、早めの説明に努めてほしい。</p> <p>石川区政推進課長：</p> <p>バス事業者や関係機関と協力しながら随時ご報告できるよう努める。</p>
備 考	